

地理歴史部会

研究主題 「わかる授業で生徒の生きる力をはぐくむ地歴融合による立体的授業の考察」

－観点別学習状況の評価と生徒による授業評価を生かした個に応じた指導の工夫－

研究の概要

現代社会の課題に対して、自ら問題の所在に気付き、資料を活用し、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育てるために、世界史、日本史、地理を融合させた授業について検討・考察した。また、観点別学習状況の評価を充実させるとともに、生徒による授業評価の項目を工夫することで、「わかる授業」を実現する工夫についても考察した。

I 研究の目的

新しい高等学校学習指導要領における地理歴史科の改訂の基本的な考え方は次の2点に集約される。すなわち、①小学校及び中学校の社会科における学習の成果の上に立って、地理・歴史学習の一層の充実を図り、相互の関連に配慮しながら、日本や世界の各時代及び各地域における風土、生活様式や文化、人々の生き方や考え方などを学び、それを通じて過去や異文化に対する理解、国際社会に主体的に生きる資質を培うようにする、②社会の変化に対応するとともに、知識・理解の学習に偏り知識の教え込みになりがちな学習を改め、学び方を学ぶ学習や課題解決的な学習を一層充実して問題解決的な能力の育成を図る、である。

また、平成12年の教育課程審議会答申は、知識や技能だけではなく、思考力、判断力、表現力、自ら学ぶ意欲・態度を適切に評価・指導していくことを求めている。さらに、東京都公立学校の「授業力」向上に関する検討委員会報告書は、教員の資質・能力向上のために、日常的な授業公開と校内研修を通じた「授業力」向上を図ることを求めている。

これらを踏まえて、本部会では、複雑多様化する現代社会の課題に対して、自ら問題の所在に気付き、資料を活用し、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育成するために、世界史、日本史及び地理を融合させた立体的授業について検討・考察した。さらに、「わかる授業」「もっと学習したくなる授業」を実現するために、生徒の自己評価を加味した授業評価項目を作成し、これを活用した教員・生徒相互のフィードバックの在り方の考察もあわせて試みた。

II 研究の方法

本部会は、二つの分科会を設け、多面的に研究の目的を追求できるようにした。第1分科会では、海が国と国を隔てる境界（障壁）ではなく、人・物・文化を結び付けるものである、という視点から、港を通じた東アジアの交流を学習することで、ボーダレス化していく国際社会で主体的に生きる力を養う授業を、第2分科会では、庶民にとって苦役の一つであった旅が「楽しみの旅行」として一般化していく過程を歴史的・地理的に学習することで、庶民のアイデアやエネルギーが社会の変化や発展・広がりをつくりだしてきたことを理解し、多様化・複雑化した現代社会で主体的に生きる力を養う授業をそれぞれ展開した。

また、生徒による授業評価項目を、生徒の自己評価を加味して学習内容に沿う形で作成し、生徒自身が各授業のねらいを確認できるようにするとともに、生徒のみならず、教員も授業の在り方を省みることができるよう工夫した。

Ⅲ 研究の内容

1 第1分科会 「港を通して見る東アジアの交流」

(1) 目標

日本は地理的に中国に近く、歴史的にも中国の影響を強く受けてきた。現在でも、日本企業の進出、日本で幅広く飲用されている中国茶に代表されるように、人・物・文化の交流が盛んに行われている。こうした状況を踏まえて、東アジアの交流を人・物・文化の交流の窓口である港及び空港の歴史や役割を通して学習し、ボーダーレス化していく国際社会で主体的に生きる力を養うことを目標とする。

(2) 評価規準

上記目標に照らし、生徒の学習状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4観点から評価するために、以下のような評価規準を設定した。

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 東アジアの港についての地理的・歴史的事象から、東アジアの交流に関心をもっている。 港や空港の役割から、国際交流について関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 港が人・物・文化の交流面で地理的・歴史的に重要な役割を果たしてきたことや、現在の東アジアにおける九州の港・空港の位置付けを多面的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料・地図を正しく読み取り、地図を作成したりして、そこから読み取ることができたり自分の意見や考えを的確にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 近代以前において海が国と国とを分けるものではなく、むしろ人・物・文化の交流面で重要な役割を果たしていたことを理解している。 現代においても海と空を通じて、人・物・文化の交流が盛んであることを理解している。

(3) 指導と評価の計画

ア 指導と評価の展開

	学 習 活 動	評 価 規 準 〈 評 価 方 法 〉	各 科 目 に お け る 位 置 付 け
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 最近の東アジア諸国との交流の深まりについて具体例を出し合い、発表する。 白地図を活用して東アジアの地理的特性を読み取る。 	関 <ul style="list-style-type: none"> 東アジア諸国の交流の深まりについて、関心・意欲をもって話し合いを行っている。 〈生徒の意見交換の観察〉 資 <ul style="list-style-type: none"> 白地図での作業を適切に行い、東アジアの地理的特性を読み取っている。 〈白地図作業の確認〉 	地理A：(2)地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題のア。世界の生活・文化の地理的考察
	<ul style="list-style-type: none"> 年表から日本と中国、朝鮮との交流の概要を理解する。 	知 <ul style="list-style-type: none"> 略年表から日本と中国との交流の概要を把握している。 〈ワークシートの内容の分析〉 	世界史A：(1)諸地域世界と交流圏のア。東アジア世界
	<ul style="list-style-type: none"> 新安沈没船の積荷から、「日元」貿易で日本が元から輸入していた物 	知 <ul style="list-style-type: none"> 新安沈没船の主な積荷が陶磁器であったことを理解している。 	世界史A：(1)諸地域世界と交流圏のオ。ユーラシアの交流圏

<p>品について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶元(寧波)の役割について理解する。 ・「日元」貿易が盛んに行われていたことを理解する。 ・「日元」貿易により日本にもたらされた文化的影響を考察する。 	<p>知</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶元(寧波)の位置を確認し、「日元」貿易の元側の出港地であったことを理解している。 <p>知</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元寇があったにもかかわらず、「日元」貿易が盛んに行われたことを理解している。 <p>知</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の商船・留学僧への圧迫が前期倭寇のきっかけとなったことを理解している。 <p>思</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの禅僧が元へ留学したことによって、文化交流が盛んになったことを考察している。 <p>知</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p>	<p>世界史B：(3)諸地域世界の交流と再編のウ。内陸アジアの動向と諸地域世界</p> <p>日本史B：(3)中世の社会・文化と東アジアのア。武家政権の成立</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・博多の役割について理解する。 ・ワークシートの白地図を利用して博多の地理的特性を読み取る。 ・年表から、博多の政治的・経済的な重要性を考察する。 ・博多を港として使用した遣唐使・遣新羅使・私商船を例にとり、人・物・文化の交流があったことを理解する。 ・日明貿易を例に取り上げ、博多における人・物・文化の交流から博多の役割を理解する。 	<p>知</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日元」貿易の日本側の主要な港が博多であったことを理解している。 <p>資</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博多の地理的特性を地図を利用して読み取り、的確に表現している。 <p>思</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年表から、博多が古来から政治的にも経済的にも重要な役割を果たしていたことを考察している。 <p>知</p> <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遣唐使と遣新羅使が日本にもたらした文物、逆に日本が輸出した文物の一覧から、博多が果たした役割を理解している。 <p>知</p> <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日明貿易によって日本にもたらされた文物の一覧を見て、博多が果たした役割を理解している。 <p>知</p> <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p>	<p>地理B：(3)現代社会の諸課題の地理的考察のア。地図化してとらえる現代社会の諸課題</p> <p>日本史B：(1)歴史の考察のイ。歴史の追究</p> <p>日本史B：(1)歴史の考察のア。歴史と資料</p> <p>日本史B：(1)歴史の考察のイ。歴史の追究</p>

<ul style="list-style-type: none"> 遣唐使や日明貿易などによる人・物・文化の交流が日本国内に与えた影響を考察する。 	<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 遣唐使や日明貿易などによる人・物・文化の交流が日本国内に与えた影響について考察し、判断している。 <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 博多は海を通して大陸との交流が盛んであったことを確認する。 福岡県の貿易品目のうち、福岡空港と博多港の貿易品目を比較して、福岡県の空港と港の貿易について考察する。 資料から福岡県における海路や空路による人の出入国の状況を読み取る。 福岡空港からの国際線路線図を作成する。 資料から九州の産業(工業)についての特徴を読み取る。 半導体工業の特性と臨空型の工業立地について考察する。 福岡空港と東アジア地域が結び付きを強めていることを理解する。 	<p>関</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代は海以外にも空を通して結び付いていることに関心をもっている。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡空港と博多港の貿易品目を比較し、福岡県の空港と港の貿易の特徴を考察している。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <p>資</p> <ul style="list-style-type: none"> 海路は短時間で結ばれている釜山との出入国のみであり、現代では出入国の多くが空路を通じて行われていることを読み取る。 <p>〈資料分析の確認〉</p> <p>関</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡空港からの国際線路線図の作成に関心を持ち、作業に取り組んでいる。 <p>〈作業に取り組む姿勢の確認〉</p> <p>資</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡空港において、東アジアとの間で半導体の取扱量が多いことに注目し、九州の工業の特徴を読み取っている。 <p>〈資料分析の確認〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州がシリコンアイランドと呼ばれている理由を半導体工業の特性と工場立地から考察している。 <p>〈発問に対する発言の内容確認〉</p> <p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> IC関連企業が東アジア地域に進出していることを理解する。 <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p>	<p>日本史 A : (4) 第二次世界大戦後の日本と世界のウ. 現代の日本と世界</p> <p>地理 B : (3) 現代世界の諸課題の地理的考察のウ. 国家間の結びつきの現状と課題</p> <p>地理 B : (1) 現代世界の系統的地理的考察のイ. 経済・産業</p> <p>地理 B : (1) 現代世界の系統的地理的考察のイ. 経済・産業</p>
<p>ま</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州はいつの時代においても東アジアへの窓口であったことを確認 	<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州と東アジアとは歴史的にも、地理的に見ても密接な関係にあることを考察して 	<p>地理 B : (3) 現代世界の諸課題の地理的考察のウ. 国家間の結びつきの現状</p>

と め	する。	いる。 〈今後の両地域の交流に対す る意見の分析〉	と課題 世界史B：(5)地球世界の 形成の力。これからの世 界と日本
--------	-----	---------------------------------	---

(関：関心・意欲・態度、思：思考・判断、資：資料活用の技能・表現、知：知識・理解)

イ 生徒による授業評価項目

時限	No.	授 業 評 価 に 関 す る 質 問 項 目
1	1	地図から東アジアの地理的特性を読み取ることができたか。
	2	年表から中国・朝鮮と日本の関係を読み取ることができたか。
	3	「日元」貿易が活発に行われていたことを理解することができたか。
2	4	地図から日本と中国大陸の関係を読み取ることができたか。
	5	年表から博多港の重要性を読み取ることができたか。
	6	古代から中世に中国・朝鮮から流入した文物が日本に与えた影響を考察することができたか。
3	7	資料から福岡県の空港と港の貿易の特徴と人の出入国の状況を読み取ることができたか。
	8	九州における半導体工業の立地と特性について理解できたか。
	9	自ら作成した空路図から福岡空港と東アジアとの結び付きを理解することができたか。
総括	10	港の学習を通じて日本と東アジアとの交流を考察することができたか。

2 第2分科会

「余暇活動としての旅行を通して考える社会の発展や広がりメカニズム」

(1) 目標

古来、苦役を伴った旅は、近世以降、交通機関の発達や旅行関係の様々なビジネス・サービス業の台頭により、楽しみを求める旅へと変化してきた。その過程を、近世・近代の日本、近代ヨーロッパ及び現代の日本を事例にとり歴史的手法と地理的手法とを織り交ぜながら考察する。さらに、社会が発展する中で人々の行動範囲が広がり、現代の旅行が文化の発達や国際理解の進展などを伴いながら、より大衆化していることを分析・考察し、広い視野から社会の成熟度や発展、その広がりメカニズムを理解する力を身に付け、多様化・複雑化した現代社会で主体的に生きる力を養うことを目標とする。

(2) 評価規準

上記目標に照らし、生徒の学習状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4観点から評価するために、以下のような評価規準を設定した。

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 知識・理解
・旅が、時代の変遷とともに、余暇としての「楽しみの旅行」へと変化していったことに興味をもって いる。	・近世以降の旅が、庶民の行動空間を拡大させ、知的好奇心を刺激して地域間理解を高め、文化の広がりや国際理解の進展	・古典や旅の案内書、地図類、版画、看板、時刻表、統計などの資史料の読み取りや、各種資料からの図表や地図の作成を通して、その	・近世以降の旅行を取り巻く諸条件の進歩や交通手段の発達などによって余暇活動としての旅行が定着してきた状況を理解している。

・旅行の在り方や産業としての旅行業や観光地などが変化していく過程に関心をもっている。	など社会の発展に貢献したことについて考察している。	時代の旅について考察したり、今日の旅との共通点や相違点について自分の意見をまとめている。	・旅のもつ様々な要素を理解し、行動空間の拡大に伴う社会発展や文化発達のメカニズムを理解している。
--	---------------------------	--	--

(3) 指導と評価の計画

ア 指導と評価の展開

	学 習 活 動	評価規準〈評価方法〉	各科目における位置付け
導 入	・旅行へ行く前に何を使って下調べ等をするか、質問しながら検索ツール等を書き出す。	関 ・情報技術の進歩に伴うおびただしい検索ツールの存在に気付き、それらの活用に関心をもっている。 〈発問に対する発言の観察とワークシートへの取組の観察〉	地理 A : (1) 現代社会の特色と地理的技能のウ。多様さを増す人間行動と現代社会
展	・古代の旅を万葉集「防人の歌」を通して考察する。 ・中世の旅の限界を「関所」の役割を知ることから理解するとともに信長・秀吉の天下統一が旅の発達に与えた影響を理解する。	思 ・史料から防人として遠国へ旅立つ人の心中を読み取り、当時の人々の旅に対する認識を考察している。 〈ワークシートの内容の分析〉 知 ・「関所」が財源徴収の手段として人々の行き来と物流の障害となっていたことを理解している。 〈発問に対する発言内容の確認〉 知 ・天下統一は関所の撤廃と流通の活性化をもたらし、人々の交流を促進したことを理解している。 〈発問に対する発言内容の確認〉	日本史 B : (1) 歴史の考察のア。歴史と資料、イ。歴史の追究 日本史 B : (4) 近世の社会・文化と国際関係のイ。産業経済の発展と都市や村落の文化
開	・江戸時代化政期に空前の旅行ブームが起こった背景について当時の旅行グッズや記された文章等を読みながら考察する。	思 ・交通システムの整備と貨幣経済の浸透は、旅行ブームを現出させ、天下泰平の実現がそれを加速させたことを考察している。 〈ワークシートの内容の分析〉 資 ・旅行ブームの火付け役となった「ハウ・ツー本」「ガイドブック」「観光地図」等に関心をもって触れ、それらの記述から当時の状況を読み取っている。 〈ワークシートの内容の分析〉	日本史 A : (1) 歴史と生活のイ。交通・通信の変化 地理 A : (1) 現代社会の特色と地理的技能のウ。多様さを増す人間行動と現代社会

<ul style="list-style-type: none"> ・人々の交流が文化の交流や広がりをもたせたことを理解する。 ・交通システムの発達や観光開発、地域産業の発達が、開港後の日本の急速な近代化実現の原動力となっていたことを考察する。 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越中富山の葉売りと湯治の旅行を例に、人々の交流が文化の地方伝播や広がりをもたせたことを理解している。 <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代に旅行が庶民にまで広がったことが開港後の日本の急速な近代化の基盤となったことを考察している。 <p>〈生徒の討議内容の観察と分析〉</p>	<p>日本史B：(4)近世の社会・文化と国際関係のイ。産業経済の発展と都市や村落の文化</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・近代の国際列車として、オリエント急行、欧亜連絡運輸等を取り上げ、資料等から当時の国際情勢や鉄道の旅について関心をもつ。 ・鉄道敷設や拡張を各国の帝国主義政策と関連させて考察する。 ・トーマス＝クック社や、ジャパントーリストビューロー等の旅行会社の出現が旅行に与えた影響について考察する。 ・鉄道網の普及により、20世前半における国際情勢が変化し、国家間の情報伝達の発達にも寄与したことを理解する。 	<p>関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アガサ＝クリスティの「オリエント急行殺人事件」や、欧亜連絡運輸に関する資料等から、当時の国際情勢や鉄道の旅について関心をもっている。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モルトケ参謀総長の言葉や、日本の南満州鉄道の資料等から、当時の帝国主義政策を展開していた各国の政治政策を読み取り、鉄道敷設との関係を考察している。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社の出現により従来苦痛を伴った旅が主に鉄道を通じて快適なものとなり、レジャー化・大衆化していった過程を考察している。 <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争以降の日本が、列強の一員となった背景に鉄道の普及があったことを理解している。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代の旅の発達の背景や鉄道の発達が国際情勢に与えた影響を考察している。 <p>〈生徒の討議内容の観察と分析〉</p>	<p>世界史B：(4)諸地域世界の結合と変容のオ。帝国主義と世界の変容、(5)地球世界の形成のオ。科学技術の発達と現代文明</p> <p>地理A：(1)現代世界の特色と地理的技術のイ。結び付く現代世界、ウ。多様さを増す人間行動と現代世界</p> <p>世界史B：(4)諸地域世界の結合と変容のオ。帝国主義と世界の変容</p> <p>日本史B：(5)近代日本の形成と東アジアのイ。国際関係の推移と立憲国家の展開</p> <p>世界史B：(4)諸地域世界の結合と変容のオ。帝国主義と世界の変容</p> <p>世界史B：(4)諸地域世界の結合と変容のオ。帝国主義と世界の変容</p> <p>日本史B：(5)近代日本の形成と東アジアのイ。国際関係の推移と立憲国家の展開</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に生徒の旅行体験に 	<p>関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動空間の広がりや偏りなど 	<p>地理A：(1)現代世界の特色</p>

<p>についてアンケートし、その結果を図表などで提示して、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から現代における日本人の余暇活動としての旅行に対する意識や位置付けについて読み取る。 国内での宿泊旅行の資料から、旅行目的や旅行先、宿泊数、費用、同行者、交通手段、不満な点などをワークシートに記入し、日本人の旅行動向を考察する。 旅行者に支持の高い温泉観光地を事例にし、資史料を参考にしながら、自然や歴史的環境を生かした観光地の形成やそうした観光地が支持された理由などを考察する。 日本人の海外旅行における訪問国をワークシートの白地図へ記入し、諸資料から日本人の海外旅行の動向を読み取る。 訪日外国人旅行者の推移や日本での行動などを資料から読み取る。 日本人海外旅行者と訪日外国人との動向を比較しながら、旅行をめぐる世界的な行動空間の拡大と、世界的なつながりを考察する。 	<p>を読み取り、現代の旅行について自らの目線で関心をもっている。</p> <p>〈資料分析の確認と発表の観察〉</p> <p>資</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行が日本人の余暇活動の一つとして定着し、興味や関心の高さとともに経済的にも重要な位置を占めていることを資料から読み取っている。 <p>〈資料分析の確認〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した旅行の様子と比較しながら、現代における日本人の旅行の特徴を考察している。 <p>〈ワークシートへの内容の分析〉</p> <p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行者の増加は観光地を形成し、地域経済や環境面に大きな影響を与えてきたことを理解している。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行者が観光地に何を期待しているかを考察している。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p> <p>資</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外旅行の自由化以降、海外旅行者の着実な増加やその属性の変化、訪問国の世界的な広がりなどを諸資料から読み取っている。 <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <p>資</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人の行動から、何を求めて日本を訪れるのかを推測している。 <p>〈ワークシートの内容の分析〉</p> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国同時多発テロや新型肺炎の流行などは、余暇活動としての旅行に影響を与えたが、今後とも旅行が、世界を結び付ける重要な方法であることを考察している。 <p>〈発問に対する発言内容の確認〉</p>	<p>と地理的技能のウ．多様さを増す人間行動と現代社会</p> <p>地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のウ．多様さを増す人間行動と現代社会</p> <p>地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のウ．多様さを増す人間行動と現代社会</p> <p>日本史A：(4)第二次大戦後の日本と世界のイ．経済の発展と国民生活</p> <p>地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のウ．多様さを増す人間行動と現代社会</p> <p>地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のウ．多様さを増す人間行動と現代社会</p> <p>地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のエ．身近な地域の国際化の発展</p> <p>地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のウ．多様さを増す人間行動と現代社会</p> <p>世界史B：(5)地球世界の形成の力．これからの世界と日本</p>
--	---	---

ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 余暇活動の一つとして旅行をとらえ、近世から現代までの共通点や相違点、変遷を整理し、現代社会の変化や発展、広がりメカニズムを考察する。 異文化理解や国際交流推進の視点から今後の旅行について考察し、意見を発表する。 	思	<ul style="list-style-type: none"> 交通システムの整備や歴史的な流れを意識しながら、資料の分析や作業を通して、行動空間の拡大や経済活動、地域環境などの視点から旅行を多面的に考察している。 〈ワークシートの内容の分析〉 旅行が地域間や国際的な文化交流に大きな役割を果たしてきたことを考察している。 〈生徒の発表の分析〉 	日本史A：(4)第二次大戦後の日本と世界のイ．経済の発展と国民生活 地理A：(1)現代世界の特色と地理的技能のウ．多様さを増す人間行動と現代社会 世界史B：(5)地球世界の形成のカ．これからの世界と日本
-------------	--	---	---	---

(関：関心・意欲・態度、思：思考・判断、資：資料活用の技能・表現、知：知識・理解)

イ 生徒による授業評価項目

時限	No.	授業評価に関する質問項目
1	1	古代の史料を読み取り、当時の人々の生活を想像することができたか。
	2	江戸時代の資料を読み、旅行が庶民の楽しみに転化していく様子が理解できたか。
	3	新しい発想が社会発展を促す原動力となることが理解できたか。
2	4	19世紀末から20世紀初頭における国際列車の旅に対する理解が深まったか。
	5	旅行会社の活躍が旅にいかなる影響を及ぼしたかを想像、理解できたか。
	6	列強諸国を中心とする当時の国際情勢を把握できたか。
3	7	現代日本において、余暇活動としての旅行への関心の高さを理解できたか。
	8	資料から日本人の旅行の形態や動向について多面的に把握できたか。
	9	日本と世界のつながりを深めるために、旅行の果たす役割を理解できたか。
総括	10	近世以降の旅行の変遷から社会の発展や広がりを理解できたか。

IV 研究の成果と課題

1 第1分科会

毎時間の最初に導入として、地理的考察を行うために白地図・統計資料を用いて、生徒自身に毎時のテーマを読み取らせる工夫を行った。その後、歴史的考察及び地理的考察を織り交ぜて、港が果たした役割と、それを通して東アジアの人・物・文化の交流を多面的に学習させるようにした。生徒の感想の中に、「地図を見ながら歴史を勉強していると、情報の窓口が増えたようで、イメージしやすかった」「今まで地図と歴史史料の両方を使って学習をしたことがなく、博多の港の役割など考えたこともなかったが、今回の学習で博多は外国からの文化などを取り入れやすく、重要な役割をもっていたのだとわかりました」などの意見があり、地理的考察と歴史的考察を有機的に関連させることが、生徒の多面的な理解を促す成果をあげたと思われる。

しかし、一方で地理的資料と歴史的史料の双方から情報を得て一定の結論を導き出すのは、多様な情報を整理することが難しいと感じる生徒もおり、「生徒による授業評価」の結果及び授業の感想を毎時確認しながら、次の授業に向けて、個に応じた新たなサポートを続ける必要があるという面も見逃してはならない。このような点で、授業評価項目の工夫は極めて重要であり、毎時の学習ポイントに見合った評価項目を設定することが肝要であると考えられる。

2 第2分科会

歴史科目に地理で行う作業を取り入れるなど、日本史・世界史・地理それぞれの科目に他科目の手法を取り入れた授業を展開した。生徒の感想の中には、「旅行の歴史を勉強していると時代ごとの旅がイメージしやすかった」「作業した地図を見ながら、旅行の発達が世界の結び付きを強めたことがわかった」などの意見があり、「地歴融合による立体的授業」が生徒のより立体的な思考・判断を促すのに効果的であったことを示しているといえよう。

一方、例えば第1時限の授業において行った、「防人の歌」を通じて古代人の旅に対する認識を読み取る取組に当たっては、「授業評価に関する質問」からもうかがわれるように、生徒の古典講読力に差が見られた。グループ学習や国語科との連携も視野に入れる必要性を感じた。このことは、教科・科目の枠を更に越えることで、生徒が様々な事象を総合的に分析・考察する能力の向上を図ることができることを示したものであり、「授業力」向上に向けて、教科の枠を越えた校内研修を企画・実施することが、今後各校において取り組むべき有効な手だてであることを示しているものと考えられる。